

発掘した鉄道唱歌の解明と沿線の地域活性化方策に関する一考察

足利工業大学工学部 学生員○清水 亮
 同 学生員 布施 和也
 同 正会員 福島 二郎
 栃木県立烏山高等学校教諭 藤井 啓太

1. はじめに

現在、わが国では、少子高齢化の進行と東京を中心とした大都市圏への過度の人口集中が恒常化し、大きな課題となっている。特に、若年層による人口の流動は、地方都市においてその財政基盤の弱体化をもたらすとともに、文化や伝統など地域の維持が困難な状況も顕在化している。栃木県の北東部に位置する那須烏山市も同様の課題を抱えた地方都市であり、その対応が急務と言える。

本研究は、那須烏山市を中心とした JR 烏山線沿線地域の地域活性化に向けた手法検討を目的としている。そのため、2014 年以降、JR 烏山線を詠った『烏寶線鉄道唱歌』(発掘資料)の解明および分析を進めてきた。

本稿では、『烏寶線鉄道唱歌』に拘わるこれまでの研究成果を踏まえ、JR 烏山線を活用した地域交流機会の拡大に向けた検討を行うことを目的とする。具体的には、市民ワークショップおよびフットパスを企画・運営し整理・分析する中で、地域交流機会の拡大に向けた取り組み成果について考察を行う。

2. 『烏寶線鉄道唱歌』とこれまでの解明成果

(1) わが国の鉄道唱歌と『烏寶線鉄道唱歌』

鉄道唱歌は、国文学者・大和田建樹が作詞し、大阪・三木書店店主の三木佐助が明治 33 年に発行した『地理教育鉄道唱歌第一集・東海道編』がその嚆矢とされる。この唱歌は爆発的な人気を博し、その後、昭和戦前期にかけて地方路線でも多くの鉄道唱歌が作られた。本研究で取り上げた『烏寶線鉄道唱歌』も前述の背景の中で作られた一つであると思われる。“烏寶線”とは、大正 12 年に開通した烏山線であり、『烏寶線鉄道唱歌』はこの路線の鉄道唱歌である。

(2) 『烏寶線鉄道唱歌』のこれまでの解明

本研究の遂行に際し、『烏寶線鉄道唱歌』の解明を進めてきた。しかしながら、現在までのところ作者の経歴はおろかその存在も明確ではない。但し、入手した 5 枚のコピーを基に、全 20 番まで記された歌詞の全容解明に傾注してきた成果として、歌詞全文は概ね特定することができた。また、当該唱歌が集録されたと記載されている

表 1 特定した『烏寶線鉄道唱歌』の全歌詞

作歌者・及川誠二(昭和5年集録)	
1	ゆくてはいつに寶積寺 希望を地史の上にして 春の一日ののどけさを 求めし今日のうれしさよ
2	窓にもたれて朝風を 愛づる折しも一聲の 汽笛と共に吾が汽車は 烏山をば出でにけり
3	愛宕の山の峯つゞき めぐると見れば虹塚の 宿もいつしかあとに見て 峽を走る心地よさ
4	妻の縁のそが中に 黄金散く花ありて 言はずかたる春の香に 思はず胸の踊るなり
5	瀑音高く緑陰に 響くはこれぞ名にし負ふ 瀧の名所と相俟ちて 観音堂のあるところ
6	石のきざはし苔むして 慈覚大師開山の 堂宇をめぐる老杉は 雲を掃ふにさもにたり
7	汽笛一聲トンネルに 我等が汽車は入りにけり 此處難工のるところ 延長費に三町餘
8	森田にきこえし発電所 小橋をすぎず荒川の 流れにわたす鐵橋に かければ音のかまびすし
9	かなたに見ゆる山脈の ふもとにひける一筆の 斜めに染めしうすかすみ 高瀬の量の得がたしや
10	いつしか大里あとにして 鎮守ふりむくひまもなく 大金驛につきにけり 驛夫のこゑもほがらかに
11	化石に名ある小河原や 人に知られし十二口 大和久小倉ほど近く 汽車は驛をばいでにけり
12	田の倉かや安楽寺 窓下に青き荒川を 再び右にながめつ すぐれば変る峯の松
13	繪にさながらの枝ぶりを 寫眞機に入るゝ者のあり 墨客何ぞ意なからん 詩人はすてじこしの峯
14	福岡すぎず鴻の山 長者平は遠けれど 今猶残る馬屋窪 八幡太郎に知られけり
15	窓より近き法康寺 一向宗にぞしられぬ 臺新田の三箇寺は 日蓮宗の古伽藍
16	太田神社を右に見て 左に仰ぐ星の宮 文殊枝の庭先を すぐれば早やも熟田驛
17	汽車は煙を吐きたてし 今ぞ熟田をいで行く 高根沢また花岡は 野州米てふ名も高し
18	廣袤幾里灌漑の 水路蜘蛛手に分れつ さすがは廣き水田に 耕すものはこゝかしこ
19	花岡枝や地藏寺を すぎて石末寶積寺 猪湖送電の架空線 鐵橋ならべ一奇觀
20	まもなく来る寶積寺 東北線と交りて 昇降客の多ければ プラットホームは繰る如し

昭和 5 年から現在までの地域変容として、土地利用・市街地・人口・小学校と児童数・地域産業および景観変容について概ね解明しつつある。表 1 に、特定した『烏寶線鉄道唱歌』の全歌詞を示す。

3. JR 烏山線の活用に向けた取り組み

(1) 地域資源の抽出

唱歌の解明を進める中で、その活用について検討を行い、多くの地方都市のまちづくりにおいて試行されている“地域資源の活用”に着目した。まず唱歌から固有名詞を抽出したところ 59 件抽出され、その内わが国の鉄道唱歌が大衆に迎え入れられた要素である“地理や歴史の表出”および“その土地の伝説や名物”等を“地域の魅力”・“地域の誇り”と位置付け、“地域資源”として抽出した。その結果、当該地域の昭和 5 年当時の地域資源として 33 件をリストアップした。

(2) 市民ワークショップの企画と開催

次に、JR 烏山線の活用による地域活性化方策として、交流機会拡大の方向性を検討することを目的に、市民ワークショップ(以下、WS と略記)を 3 回企画・開催した。第 1 回は、市民に向けた『烏寶線鉄道唱歌』の周知・啓発とその浸透を念頭に、前述した昭和 5 年当時の 33 件の地域資源の確認を行った。第 2 回では、“現代の地域資源”の抽出を行った。その結果、回収した付箋紙 112 枚・固有名詞 151 件を基に、昭和 5 年と同様の手法に「地域資源促進活用法(中小企業庁。平成 19.5.11 施行)/平成

キーワード 鉄道唱歌, JR 烏山線, 地域活性化, 発掘資料の解明, 手法検討

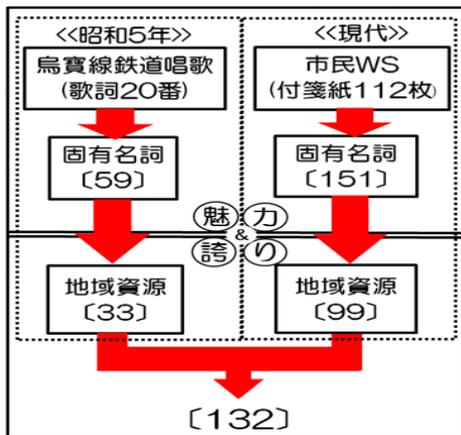


図1 昭和5年と現代の地域資源の抽出過程と件数

27.7.15 改正)」の考え方を加味し、現代の地域資源として99件を抽出した。また、第3回では、“現代版鳥山線鉄道唱歌”の創作を念頭に、抽出した現代の地域資源を用いた歌詞の文言構成について提示してもらった。図1に、昭和5年および現代の地域資源の抽出過程と件数を示す。市民WSへの参加者数は、延べ89名であった。

(3) フットパスの企画・開催

市民WSの成果として、当該地域における地域資源（昭和5年+現代として）132件をリストアップした。これを対象地域に貼り付けるとともに、JR鳥山線を構成する8駅のエリアに区分した。その結果、鳥山駅57件43.2%、滝駅15件11.4%、小埴駅11件8.3%、大金駅17件12.9%、鴻野山駅15件11.4%、仁井田駅4件3.0%、下野花岡駅7件5.3%、宝積寺駅2件1.5%、その他（全エリア共通）4件3.0%であり、旧鳥山町3駅の合計が全体の約63%を占めた。今回のフットパスは（以下、FP）、JR鳥山線を活用した取り組みとして、(1)1区間以上鉄道に乗車し、

(2)各駅を起点に地域資源を回遊する企画、とした。地域資源が集積する鳥山駅を中心にコースを選定し、3回開催で3駅22件の地域資源を回遊することとした。また、FP実施後に、『地域資源回遊マップ』を製作することを最終目標とし、FP参加者に本企画の趣旨を伝え、①駅から地域資源までの時間・距離の計測、②見学した地域資源の感想・紹介文の作成、③イラストの作成（後日応募）をお願いした。図2に、今回の3回企画したFPの回遊資源の概略位置を示す。FP参加者数は、第1回53名、第2回25名、および第3回28名の延べ106名であった。

4. FPの成果と『地域資源回遊マップ』の製作

FP参加者に協力を依頼した①~③は、①・②は概ね回収され、③はこれから集まってくることになるが、筆者の依頼による試作品として現在13点ある。このようにして、参加者から寄せられた結果と作品を基に、『JR鳥山線沿線の地域資源回遊マップ』を製作した。このマ

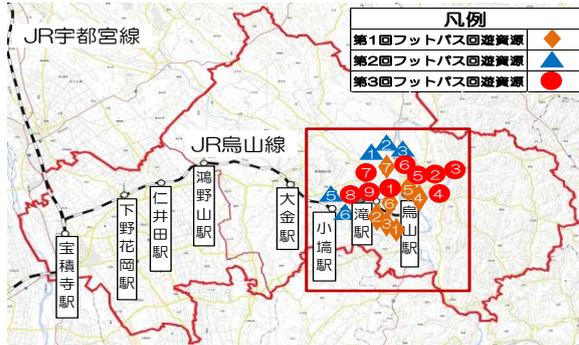


図2 3回企画したFPの回遊資源と概略位置

ップは、参加者の感想を含めた回答と応募によって構成することを意図したものであり、参加者の“視点”や“思い”により構築される情報マップである。図3に、これらのデータを反映した『地域資源回遊マップ』を示す。

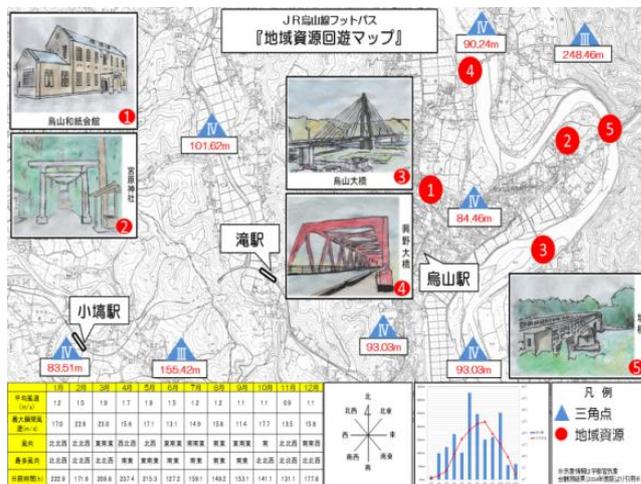


図3 『地域資源回遊マップ』(表面)

5. まとめ

『鳥山線鉄道唱歌』の発掘を端緒に、JR鳥山線沿線の地域活性化に関する検討として、唱歌の歌詞の解明を踏まえ、市民WS・FPの企画運営、さらに『地域資源回遊マップ』の製作を行った。その成果は以下のとおりである。(1)鉄道唱歌の歌詞全文を特定するとともに、近代後期以降の地域変容が概ね把握できた。(2)マップの製作過程をとおして、市への愛着心、地域交流機会拡大に向けた取り組みが構築できた。即ち、①市民WSでの“地域の魅力”や“地域の誇り”となる資源の抽出過程における市への思いの共有促進、②地域資源として現代とともに昭和5年の資源を含めたことによる“土地の記憶の覚醒と継承”の増幅、③FP参加者はイラスト・紹介文・時間距離マップの制作とその順次更新への関与により、地域理解の深化とともに地域づくりに参加することが可能となる。

今後は、本研究の取り組み成果の精査とともに、その狙いとした効果の検証が必要となる。

*本研は、『那須烏山市まちづくり研究会』活動の一環として実施した。